

平成29年4月15日(土)
日本産科婦人科学会第69回学術講演会
「拡大医療改革委員会」兼「産婦人科医療改革公開フォーラム」
「持続可能な地域産婦人科医療提供体制の確保のために」
—地域基幹分娩取扱病院重点化プロジェクトの現状と各地の取り組み—

顔が見える、声が聞こえる 周産期医療連携

宮崎県立延岡病院
産婦人科・周産期科
寺尾公成

大塚晃生 山内綾 明野慶子 土井宏太郎

県北地区の周産期医療状況

宮崎県の面積 40%



- 県立延岡病院
- 1次分娩施設

【県北地区】

人口 22万人
分娩数 2,200件/年
1次分娩施設 6軒

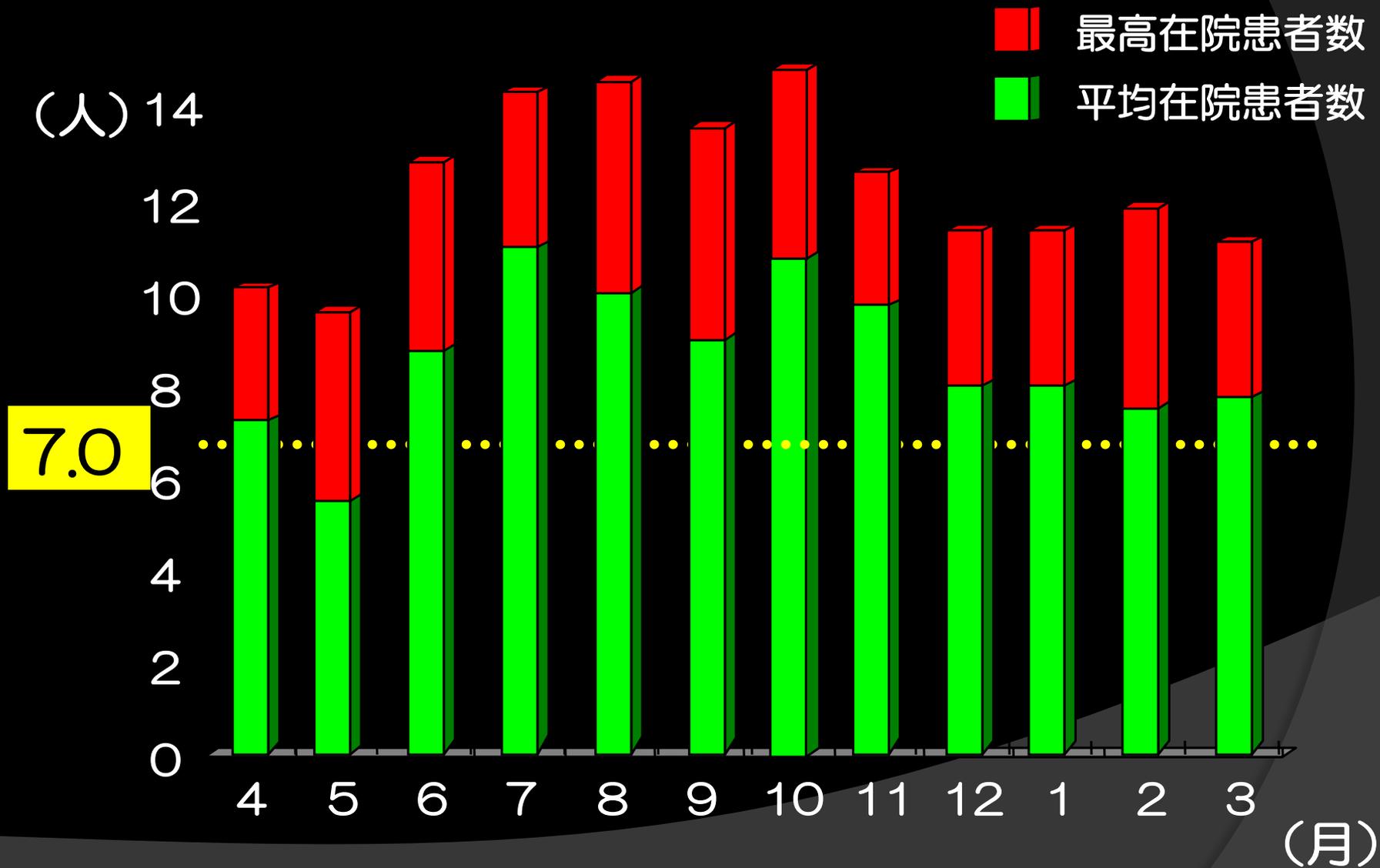
【県全体】

人口 100万人
分娩数 10,000件/年
1次分娩施設 32軒

出生数とNICU病床数（平成16年）

地区	出生数	NICU施設	病床数	割合
県央	5,072	A	21	1/86
		B	13	
		C	16	
		D	9	
県西	2,454	E	14	1/116
		F	8	
県南	637	G	10	1/64
県北	2,257	県立延岡	7	1/322

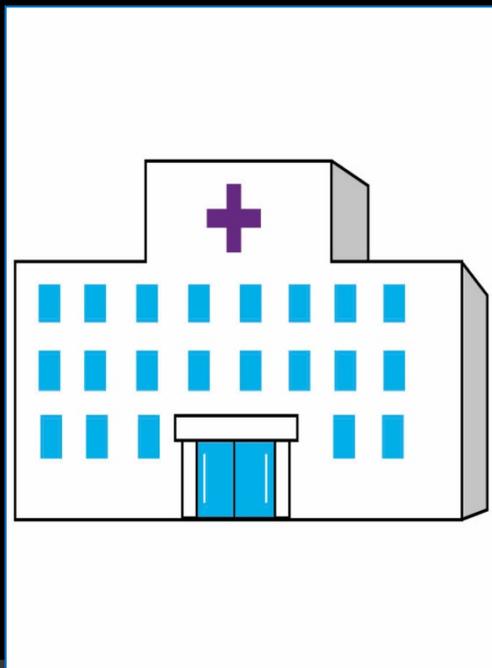
NICU在院患者数 (平成15年度)



新生児逆搬送システム

平成10年の開設当初からオーバーベッドが続き、周産期医療を必要とする胎児、並びに新生児を必ずしも受け入れられない状況下にあった。同状況を打破するため、「宮崎県北産婦人科医会（通称；二八会）」で協議を重ね、平成16年9月より、一定の基準に達した児を紹介元（1次分娩施設）に戻すシステムを開発した。

県立延岡病院



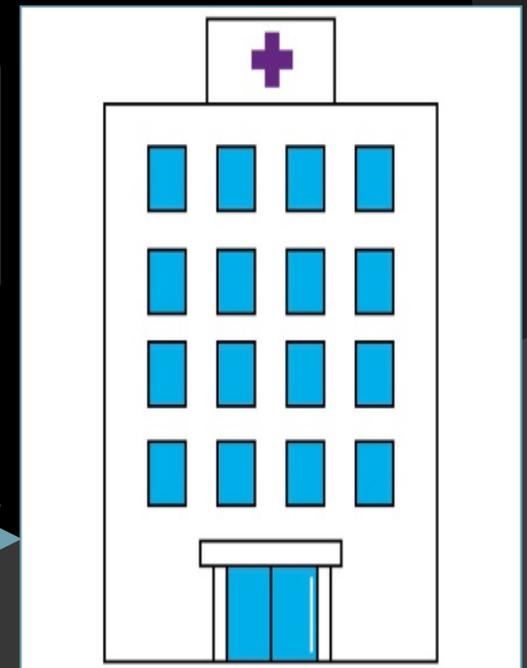
①搬送

ハイリスク
胎児新生児

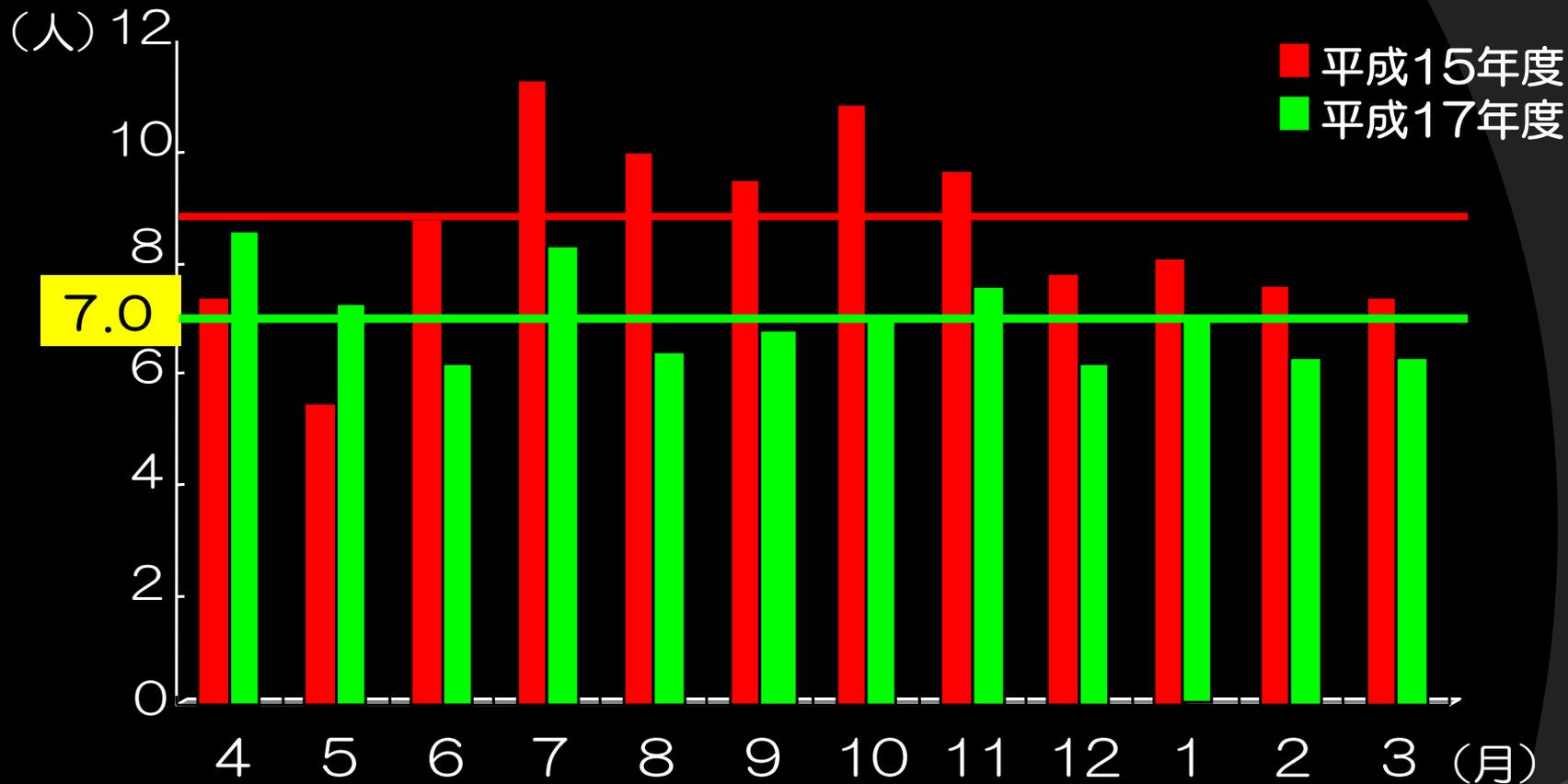
2000g
修正36週

②逆搬送

1次分娩施設



NICU在院患者数の変化



平成15年度
 入院総数 128人
 1日平均 8.8床
 在院日数 28.1日



平成17年度
 168人
 7.0床
 18.6日

宮崎県北地区の取り組み

①新生児逆搬送システム

- growing care となった「2,000gr & 修正36週」

②周産期救急ホットライン

- 地域周産期センター医師への直通携帯電話

③助産師・看護師連携（ひむか会；年4回）

- 新生児勉強会、講演会、親睦会

④宮崎県北産婦人科医会（通称 二八会）

- 昭和20年代から毎月開催（28日前後）
- 親睦会、症例検討会、講演会 → 情報共有

宮崎県北産婦人科医会（通称 二八会）

「本会の長年にわたる結束力により、大手術や重症症例が発生した場合には、他の会員が駆けつける等の相互協力体制が取られている。」

故 井上日出男 先生

宮崎県医師会雑誌（昭和62年）

ニハ会アラカルト



(久留米大学 牛島先生)



(鹿児島大学 小林先生)



(宮崎大学 池の上先生)



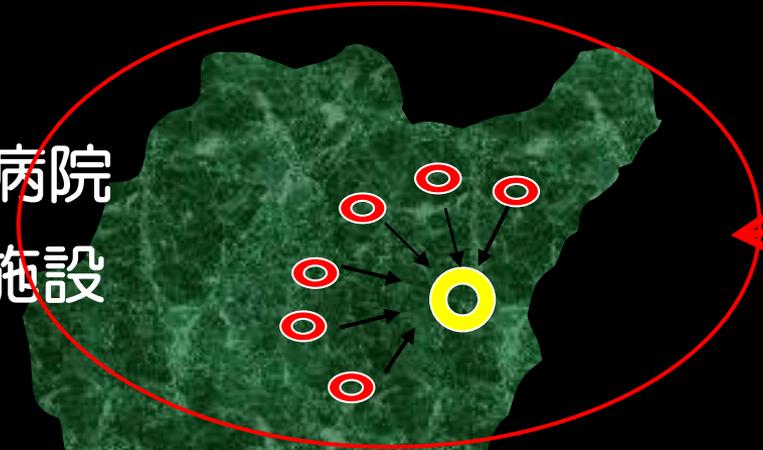
(宮崎大学 鮫島先生)



(杏林大学 古川先生)

顔が見える、声が聞こえる周産期医療連携

- 県立延岡病院
- 1次分娩施設



「二八会病院」
人口 22万人
分娩数 2,200件/年

「二八会」
宮崎県北産婦人科医会

- ・ 昭和20年代から、毎月開催
- ・ 親睦会、症例検討会、講演会



在りし日の二八会

(九州大学 加藤聖子先生をお招きして)

御清聴、
ありがとうございました。